

新生児医療連絡会 2026 年第 1 回総会 議事録

日 時：2026 年 7 月 13 日(月) 18:15～20:00

会 場：パシフィコ横浜会議センター5 階 511+512 会議室

(議題中すべて敬称略)

- ・ 会員 100 名の出席を得て開催された。

I. 報告事項

1. 2025 年度会計報告 (荒堀仁美)

- ・ 2025 年度の単年度収支は 1,330,216 円の黒字となり、次年度繰越金は 14,588,888 円となったことが報告された。

2. 会員状況 (2026 年 7 月 13 日現在) (杉浦 弘)

1) 会員数 478 名 (前回 476 名 入会申請 3 名、退会者 1 名)

- ・ 新入会 (2026/4/14～2026/7/13)

26/05/15 畑山 一貴 (国立成育医療研究センター 新生児科)

26/05/17 柴田 優花 (国立成育医療研究センター 新生児科)

26/06/01 福井 加奈 (国立成育医療研究センター 新生児科)

2) NICU 代表 243 施設 (前回 243 施設)

- ・ 上記のとおり報告された。

2. 創立 40 周年記念誌 (荒堀仁美)

1) 過去の発行実績 (1985 年 5 月設立)

- ・ 2007 年 7 月 創立 20 周年記念誌 発行
- ・ 2016 年 5 月 創立 30 周年記念誌 発行
- ・ 2026 年 11 月 創立 40 周年記念誌 発行予定

2) 制作委員会メンバー

猪俣 慶、祝原賢幸、寺澤大祐、藤岡一路、置塩英美、豊 奈々絵 (Quota 幹事)
徳久琢也、杉浦 弘、荒堀仁美 (執行部)

3) 目次案 (著者約 30 名、総ページ数 90 ページ程度)

第 1 部 創立からの歩み

第 2 部 この 10 年を振り返る

第 3 部 各地域・施設における新生児医療のいま

第 4 部 新生児医療を取り巻く未来

4) 発行計画

- ・2025 年 11 月 制作委員会にて目次を決定し執筆依頼発出
- ・2026 年 3 月 原稿締切
- ・2026 年 11 月 発行予定（記念懇親会の開催を検討）

5) 装丁

- ・デザイン 2 案を検討中。
- ・原稿の脱稿状況が報告された。装丁デザインは 2 案のうち 1 案に方針が決まった。

3. Quota 幹事（杉浦 弘）

1) 現 Quota 幹事

- ・50 歳未満（4 名） 祝原 賢幸・寺澤 大祐 2 名欠員
- ・女性（2 名） 置塩 英美・豊 奈々絵
- ・地域周産期（2 名） 2 名欠員

2) 元 Quota 幹事

- ・執行部選出 荒堀 仁美
- ・地域ブロックに移行 猪俣 慶・藤岡 一路

3) 自薦・他薦結果（5/15～6/5）

- ・片岡 大（かたおか だい）
所 属：公立豊岡病院組合立 豊岡病院 新生児科
入 会：2024/06/11
生 年：1987 年（39 歳）
届 出：自薦 ①50 代未満 枠
- ・三浦 紀子（みうら のりこ）
所 属：高知大学医学部附属病院 小児科
入 会：2022/04/09
生 年：1978 年（47 歳）
届 出：他薦 ②地域周産期 枠
推薦者：丸山 秀彦（高知医療センター 小児科）
- ・友滝 清一（ともたき せいいち）
所 属：京都大学医学部附属病院 新生児部門
入 会：2019/12/06
生 年：1984 年（41 歳）
届 出：自薦 ①50 代未満 枠
- ・片岡 大 先生、三浦 紀子 先生、友滝 清一 先生の Quota 幹事就任が報告された。

4. 40周年記念祝賀会企画（杉浦 弘）

1) 幹事の選出

- ・担 当：Quota 幹事・新 Quota 幹事
- ・業 務：会場決定、招待者の決定、当日の式次第作成など

2) 概 要

- ・日 時：2026 年 11 月 21 日(土)の総会当日を検討中
- ・会 場：横浜パシフィコノース近辺で、総会会場兼懇親会会場を検討
- ・参 考：創立 30 周年記念式典の次第（以下）

OB の先生が多数出席され立食形式でカジュアルな雰囲気

- ・記念祝賀会を担当する Quota 幹事、執行部から、以下の概要が示され承認された。

創立 40 周年記念式典

日 時 2026 年 11 月 21 日（土）総会 18:00～18:30

記念講演 18:30～19:30 祝賀会 19:30～21:00

（日本新生児成育医学会学術集会 2 日目）

記念講演会（司会：杉浦 弘先生、荒堀仁美先生）

開会挨拶

記念講演：和田和子先生、福原里恵先生、徳久琢也会長

祝賀会 （司会：豊奈々絵先生）

開会挨拶 杉浦 弘事務局長

来賓祝辞 厚生労働省医政局地域医療計画課救急・周産期医療対策室室長

乾杯 中村友彦先生

挨拶 歴代会長、事務局長挨拶（指名して、順番にご発言）

閉会挨拶 高橋尚人先生

5. 2026 年の予定（杉浦 弘）

1) 2026 年 4 月 第 1 回役員会 4 月 13 日(月) Web 会議形式

2) 2026 年 7 月 第 2 回役員会 7 月 13 日(月) 8:00～9:00

第 1 回総会 7 月 13 日(月)18:15～20:00

（第 62 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2 日目、横浜）

3) 2026 年 11 月 第 3 回役員会 11 月 21 日(土) 8:00～9:00

第 2 回総会 11 月 21 日(土)18:00～20:00 3F 第 5 会場

（第 70 回日本新生児成育医学会・学術集会 2 日目、横浜）

- ・上記のスケジュールを確認した。

Ⅱ. グランドデザイン総会ディスカッション

1. 新生児医療体制のグランドデザイン策定への提言（杉浦 弘）

0) 会長より 厚生労働省の資料より

1) 経過

- ・2026年1月 執行部が厚生労働省医政局訪問

第9次医療計画に向けて、今後の新生児医療体制を議論した。厚生労働省は周産期医療集約化のグランドデザインを描けておらず、執行部と課題を共有した。

- ・2026年4月13日 新生児医療連絡会役員会開催

以下の課題（厚生労働省 WG：第9次医療計画に向けた周産期・新生児医療体制の見直し）を共有し新生児医療体制のグランドデザイン提言を行うことを検討した。目的は都道府県の実状にあった地域医療計画策定の根拠となるデータ取得である。

①施設と地域医療体制などをスコア化

②既に集約化に取り組んでいる都道府県もあるため、先進県の情報を共有のうえ、都市圏や地域に合ったパターン別のモデルを作成

2) 集約化の課題

①集約化の方法

集約化が必要な都道府県とそうではない県がある。県内で集約化できる県と県境を跨いだ周産期医療圏を策定した方がよい県がある。

②集約化の障壁

- ・経営母体の違い
- ・病院の統合だけではなく、医師、看護師の集約
- ・かかわる多くの診療科の集約もしくは速やかな連携体制構築
- ・フォローアップ体制、在宅医療診療体制の確立
- ・国民の理解

③安全で質の高い出産、新生児医療の提供

周産期センターの集約化は、分娩施設や高次周産期医療施設までの時間的、空間的距離が生まれ、必ずしも安全な出産と新生児医療の提供につながらない。

④地域周産期センターの稼働性と GCU の稼働性については集約化ではなく機能分担へ

◆ 国のロードマップ

2028年度末に国から都道府県に方針伝達

2029年度に都道府県が地域医療計画策定

2030年度、第9次医療計画開始

2027年度末に新生児医療連絡会から厚生労働省へ提言

- ・上記の内容について審議を行った。議事録は別紙のとおり。